

第3回未来教室 新宿区立西早稲田中学校

- 1、学校名 新宿区立西早稲田中学校
校長 三町 章 (副校長 古谷野 悦夫)
- 2、住 所 新宿区戸山3-20-2 最寄駅 副都心線 西早稲田駅
TEL (3205-9674) FAX (3205-9859)
- 3、開催日時 平成23年11月8日(火) 午前9時40分～ (50分授業)
- 4、テーマ 「技術・家庭」授業 情報と暮らし
- 5、実施学年 2学年 3クラス 各クラス36名
- 6、目的 教科「技術家庭(情報の基礎)」情報に関する基礎教育として暮らしの中の情報について考える。
- 7、講師 及び 演題
2時間目 9時40分～10時30分
2年3組 インテル(株) 堀井あかり氏「情報と暮らし」
3時間目 10時40分～11時30分
2年1組 東日本旅客鉄道(株) 持立雄也氏「鉄道の情報と環境」
4時間目 11時40分～12時30分
2年2組 東日本旅客鉄道(株) 持立雄也氏「鉄道の情報と環境」
- 8、その他 授業終了後給食懇談会
(校長、副校長、教科担任、副担任、企業講師、おやし日本)



↑ 授業風景「情報と暮らし」



↑ 授業風景「鉄道の情報と環境」↑



新宿区立西早稲田中学校授業参観記

2011年11月8日(火)

特定非営利活動法人おやし日本未来教室担当 高島信義

生徒も授業者も始め緊張気味で開始。授業者の自己紹介の中で、アメリカで学校生活を送ったことに触れると、生徒たちの集中度がたまり、就職したきっかけや現在の仕事内容、会社の事業説明では、有名なサッカー選手の名前が出てくるころから授業者と生徒との間に授業に対する「共通意識」が出てきて、本日の主目的である「情報と生活」に入っていた。

子どもと授業者との間に「共通項」を作るのが授業の導入と授業に対する興味と意欲の持続の基本であるが、サッカーとインテルというブランド名をうまくかみ合わせた進めか方は、主題を導き出す大きな働きをしていた。

さて、「情報と生活」という授業主題について、技術革新における情報機器の進例

えば、AR（現実拡張）技術をはじめ数々の変化は、社会生活や家庭生活ばかりでなく学校の生活にも大きな変化をもたらしてきた。「情報が生活を変えたのか」「生活の変化（人の進化への期待）が情報を変えていったのか」その変化の様子を、最新の機器を生徒たちに触れさせながら考えさせた。「情報機器は人間の生活を未来につなぐ役目を担っている」という最終のまとめは、情報が生活にもたらす役目の「プラスとマイナス」をうまく生徒の理解を導きだしたものである。

よく「授業は生き物である」といわれます。生かすのは、「授業者と授業を受ける者との」間に、「共に学んでいる空間をつくり出す」ことが大切であることを改めて教えてもらった授業でした。

西早稲田中学校「未来教室」JR東日本様の授業を見学して

特定非営利活動法人おやし未来教室担当 池田利美

今回の未来教室は、「技術家庭（情報の基礎）」という科目での授業でした。

「情報」というものを「鉄道会社として安全運行に必要な情報」という観点から分かり易く説明いただき、特に、厚紙の切符にハサミを入れて改札していたものが「スイカ」になったのも情報技術の飛躍的な進展によるもので、日常何気なく使っている「スイカ」にどれだけの情報が詰まっているのかという話は、大人もわくわくするような話でした。

生徒の皆さんには、いろいろな意味での「情報」というものに対する見方、活用の仕方を、そして、この情報化社会をどう生きていくかを考える良い機会になったものと思います。

テーマである「情報と社会のつながり」を学ぶという点ではぴったりの内容であり、あっという間の50分間だったのではないのでしょうか。

新宿区立西早稲田中学校「未来教室」参観記

NPO法人おやし日本副理事長 納富善朗
平成23年11月8日午前10時40分。

JR東日本の持立雄也さんが2年1組のゲストティーチャーとして「技術・家庭」の「情報に関する基礎教育」の授業に登壇し

た。持立さんはJR東日本の「出前授業」のパイオニア。小学校5年生社会科の「環境単元」用のテキスト開発の中心メンバー

でもあり、この日の教材（DVD）と教具は、これを基にして持立さんが開発した中学校バージョンである。

授業は、質疑、ロールプレイ、改札ハサミや切符の見分など、全員参加で進められた。まず、「鉄道事業にはどのような情報があると思いますか？」の問いかけ。「時刻表」、「駅名」などと答える生徒。列車遅延等の運行情報や駅構内の案内情報などの情報内容、時刻表、運賃表、行先表示板、インターネットなどの情報ツールがあるという説明、運転手と車掌がブザーで連絡する動画などで、「受け手にとって有用な情報が必要な情報である」ことを学んだ。次に、切符の進化（自動改札機切符→プリペイドカード→スイカ）が紹介された。実物（スイカには情報読取り器も）を見て触ってワイワイの生徒たちに、「情報内容が飛躍的に豊かになりました。それでは、スイカにな

ってよくなったことは何でしょう」の問いかけ。「利用者にとっては？」、「鉄道会社にとっては？」、「社会にとっては？」。思い思いに考えを述べた生徒たちに、「紙資源が節約されることと切符のリサイクルがあります。駅のトイレトーパーは使用済みの切符で作られています。」持立講師の授業は、「情報の処理には個人情報を守らなければならないなどのルールがあります。情報は活用次第で成長のチャンスを与えてくれます。情報は生活をより良くするほかに社会問題の解決にもつながっています」という言葉で締めくくられた。ある生徒に授業の感想を尋ねたところ、「スイカの中にいろんなことが記録されていてびっくりしました」との返事。この驚きは、今後どのように発展するのだろう。将来が楽しみな、充実した50分であった。